

令和5年度地域イノベーション創出に向けた実践的教育研究推進プログラム(地域参加型研究プロジェクト)採択一覧

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
1	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	地域学部	岡村知子	鳥取の歌人・杉原一司の研究	鳥取県八頭郡八頭町出身の歌人・杉原一司(1926～1950)は、近現代短歌史における重要性を指摘されながら、その作品や資料が未整理の状態にある。本プロジェクトでは、2022年に地域学部より刊行した『杉原一司 塚本邦雄 往復書簡』を、さらに充実したものにして短歌研究社より電子書籍として再刊することで、短歌研究者や一般読者に広くその内容を届けることを目指す。また、杉原家や八東図書館、鳥取県歌人会等の協力を仰ぐことで、一司にまつわる資料を収集・整理し、『杉原一司全集』編纂の準備を進める。これらの取り組みは、戦中から戦後にかけて八頭町に存在した、一司を中心とする文化人コミュニティのありようを明らかにするとともに、現代における同地域の文化活動の活性化に寄与するものである。
2	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	医学部	上田 悦子	住民アンケートによる地域連携食防災啓発活動の評価と改善方法の検討	令和2年に実施した「鳥取県民の災害時の食の備え調査」の分析結果により、循環備蓄知識のある人は実践意欲や実際の食関連の備蓄量が高い傾向にあること、また年代により食の備えの情報収集源が異なることなどが明らかになった。 地域住民の備蓄行動意欲を高めるには、必要とする方に適切な情報提供が重要と考え、R4年に日南町をフィールドとして、食の専門家や地域自治体と連携し、備蓄行動を促すための効果的な啓発ツールの開発と提供を開始した。(プロジェクト名称:「地域住民の食の防災行動を促す情報提供のあり方の検討と評価」) R5年度は引き続きこのプロジェクトを進める。本研究では、これら実践活動を評価するために住民へのアンケート調査を行い、分析結果をフィードバックし、課題解決に向けて検討する。
3	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	工学部	南野 友香	鳥取県の製造業における品質確認業務の効率化	鳥取県の労働人口が減少する昨今、労働生産性の向上と人材確保は企業にとって喫緊の課題である。労働生産性を高める最も有効な手段である業務効率化は、多様な働き方の実現、労働時間の減少といった労働環境の改善、ひいては従業員のリスクリングやリカレント教育の機会提供に繋がる。しかし、業務効率化は容易ではなく、特に、中小企業は習慣や経験に基づいて業務が行われているのが現状である。したがって、習慣や経験を定量的に評価し、科学的に最適化する手法が必要である。本プロジェクトでは、県内企業における働き方改革による労働生産性の向上を図るため、鳥取県内の製造業の品質確認業務を事例として、業務効率化を促す体制構築を支援する分析システムを開発する。

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
4	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	工学部	長曾我部まどか	AIチャットボットによる対話支援方法の開発	地域では生活サービスを維持することやコミュニティビジネスの事業主体となることが期待されており、これまでの合意形成を目的とした話し合いのみならず創造的な話し合いがますます必要になる。しかしながら、人々には新たな取り組みや事業に関する知識や情報が不足している可能性があり、限られた時間の中でアイデアの具体化まで到達することは難しい。そのため、創造的な話し合いを支援する技術が必要になる。そこで、本研究では鳥取大学の学生および北栄町の「ほくえい未来ラボ」の参加者を対象として、AIチャットボットを使用した対話実験を行い、創造的な話し合いの場におけるAIチャットボットの効果および活用可能性を検証することを試みる。
5	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	農学部	猪迫耕二	県特産ナガイモ「ねばりっこ」における黒陥没障害の発生を抑制する圃場管理法の探索	鳥取県の特産物であるナガイモの重要な生産地である北条砂丘畑において、生理障害と目される黒陥没障害が多発するようになり、品質低下が問題視されるようになった。鳥取県砂丘地農業研究センターを中心にその発生要因が精力的に調査され、土壌の過湿などが発生要因として疑われているが、未だ特定には至っていない。そこで、本研究では、黒陥没障害が発生する北条砂丘のナガイモ畑において防止効果が期待できる土壌改良剤等を用いた栽培区や灌水管理法を変えた処理区を設定し、各区の土壌水分、地温、降水量等の精密な測定を実施し、黒陥没障害等の発生を抑えるために有効な圃場管理法を探索する。
6	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	農学部	近藤謙介	竹粉の農業資材としての利用	中山間地域では農林業の担い手の減少により農地や森林の維持管理が年々困難となってきた。竹林の管理も同様で、さらに、竹林から排出される余剰の竹(廃竹)の効果的な利用方法の確立が求められている。そこで本プロジェクトでは、余剰竹の利活用を促進するため、法面緑化資材としての利用実績がある竹粉(綿状竹短繊維)の農業資材としての利用可能性を検討し、新たな竹の利用方法の確立を目指す。
7	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	農学部	芳賀 弘和	変動環境下の水・土砂災害リスクに対応できる中山間地域の自助・共助体制の強化	令和2～4年度において、本申請プロジェクトに関連する研究(地域参加型研究PJ)を鳥取市東郷地区で実施し、自然環境や防災に対する住民の関心および教育現場の対応状況について検討してきた。その結果、水・土砂災害の際には地域の自助・共助体制は機能しにくい状況にあること、およびコロナ禍の長期化により地域住民が意見交換する機会と意欲が減少していることが推察された。特に、後者の機会と意欲の減少は、自助・共助を考える上で致命的である。このような状況では、大仕掛けによって地域へと“押しつける防災”ではなく、さりげなく地域の需要に“寄り添う防災”が不可欠である。今回の申請研究では、地域で続いている諸活動との支援的コラボレーションにより、子供、家族、関係住民に対して防災ワークショップを実施し、地域の防災力向上につながる潜在ニーズの発掘と支援を目指す。

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
8	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	地域学部	佐々木友輔	地域の芸術家との協働による鳥取の映画文化リサーチプロジェクト	<p>本プロジェクトは、地域の固有価値を活かした地方創生へ向けた取り組みとして、専門ゼミや分野横断型の合同ゼミで地域調査やメディアの活用方法を学んだ学生と教員が、地域で活動する芸術活動従事者と協働して、鳥取の地域文化や資源の価値の再創出に向けた研究・実践を行うことを目的とする。</p> <p>鳥取市・米子市・境港市内を調査対象とした令和3・4年度に続き、令和5度は倉吉市と郡部の映画文化に関する調査を行い、鳥取を拠点に制作活動を行うアーティストClaraのイラストで「鳥取の映画館とレンタルビデオショップ」の記憶を復元する展覧会を実施する。また学生が主体となって、地域住民から提供された資料のデジタル化・データベース化を行い、資料整理やアーカイブ構築を実践的に学ぶ機会を設ける。</p> <p>ま上記の展覧会・シンポジウムの来場者に情報提供を呼びかけ、次年度の調査活動の基盤を作るサイクルを確立させる。これらの取り組みを通じて、地域の芸術活動従事者と学生、教員が協働して様々な社会的課題に向き合っていくための信頼関係を構築し、鳥取で草の根的に蓄積されて来た芸術文化の継承と振興に寄与したい。</p>
9	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R5~R7	地域学部	石山雄貴	地域協働型教育ガバナンス構築に向けた地域人材育成プログラムの開発	<p>本研究は、地域協働型教育ガバナンス構築に向けた地域人材育成プログラムの開発を目的とする。現在、「高校魅力化」に向けた取り組みが全国の中山間地域の高校で進んでいるが、「高校魅力化」には、地域住民が主体的に高校づくりに参画する地域協働型教育ガバナンスの構築やそのための住民の学習(地域人材育成)が課題となる。そこで本研究では、(1)「高校魅力化」を支える地域協働型教育ガバナンス・スキームの構築、(2)「高校魅力化」を支える人材としての主体形成過程と学習課題の明確化、(3)地域協働型教育ガバナンス構築に向けた地域住民向けの地域人材育成プログラム作成とその実施・評価を行う。プログラム開発とその利活用は、調査先である香美町の高校関係者や地域団体と協働して行う。</p>
10	地域参加型研究プロジェクト(短期型)	医学部	増本 年男	働く世代における睡眠時間の実態調査および睡眠の健康影響調査	<p>近年、社会構造および産業活動の変化により、全ての年代において睡眠時間の短縮が大きな問題となっている。メンタルヘルスの不調や他の疾患の予防のためには睡眠による休息が重要であるが、その睡眠時間の確保ができていない人が増加している。そこで、本研究では、地域の企業における睡眠時間を調査し、どういった影響があるのかについて調べる。さらに、睡眠時間に影響を与える要因を調べ、どうすれば睡眠時間短縮を検討する。本研究で得られた知見は、個人個人の睡眠に対する行動変容を促すだけでなく、各企業における働き方の見直しを促すことができると期待される。</p>

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
11	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R5~R7	農学部	齊藤 忠臣	UAVを用いた鳥取砂丘の3次元モデルデータのアーカイブ化と利活用	本研究プロジェクトは、UAV(ドローン)の空撮画像より作成される鳥取砂丘の3次元モデルをアーカイブ化して公開し、鳥取砂丘の持続的な保全計画の策定や、学術研究、民間・商業活動へと利活用することを目的としている。月単位の空撮画像より作成される3次元モデルは高精度の解像度と位置情報を有しており、モデルの比較より得られる植生・地形等の変遷から、近年砂丘で問題となっている草地化や砂移動の激化のモニタリングが可能となる。また、砂丘の3次元モデルは、ゲーム・VRシステムの開発や、3Dプリンタでの印刷によるジオラマ・土産物の作成といった民間・観光面での利用も期待される。アーカイブ公開用のHPを作成し、産官学の依頼に応じてモデルファイルを提供する。
12	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R5~R6	農学部	木戸一孝	八頭町で発生しているアスパラガス茎枯病の病害防除対策の確立	八頭町で栽培しているアスパラガスにて土壤病害である茎枯病が発生しているが、多年生であるアスパラガスに対して思い切った土壤消毒ができないという問題を抱えている。また、農業現場では竹林整備に伴う竹の焼却処分ができず、新たな対応が急務となっている。一方、鳥取県内の酒造会社ではビール、焼酎などを生産する過程で発生した数千トンの余剰酵母の再利用が求められている。そこで、酵母が有用な肥料成分を保有し、植物の病害抵抗性を誘導する可能性を秘めていることに着目して、「破碎した竹と余剰酵母を合わせた土壤改良剤」を研究開発し、アスパラガス立枯病に対する新たな病害防除に取り組む。これにより問題となっている3つの課題を解消できる可能性がある。
13	地域参加型研究プロジェクト(短期型・継続)	農学部	清水克之	淡水レンズの保全と持続的利用にむけた水文調査	日本で初めて確認された淡水レンズは鳥取県の弓ヶ浜半島である。淡水レンズとは、島や半島の地下で淡水が海水と混ざらずに、淡水が海水に浮いた状態で凸レンズ状の形で安定した帯水層である。弓ヶ浜半島では、この涵養された地下水を揚水して、かんがい農業に利用する。この淡水レンズについて地質学的調査は行われてきたが、その保全や持続的な農業水利用の観点で調査分析はされていない。本プロジェクトでは地下水位の時空間変動特性を明らかにするため、半島の上・中・下流の左岸・中央・右岸(計9地点)で地下水位の連続観測を行う。得られた成果はその後の地下水位変動のモデル化やモデルを用いたシミュレーションに不可欠なデータとなる。

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
14	地域参加型研究プロジェクト (短期型・継続)	農学部	山崎由理	UAVを用いたため池の水位一貯水量曲線の簡易作成手法の開発	令和3年7月に発生した豪雨により、鳥取県北栄町の双子池では堤体が決壊し、周辺の田畑や農業施設に甚大な被害をもたらした。ため池管理の脆弱化が問題視されるなど、鳥取県においてため池の防災・減災対策は喫緊の課題である。他方、鳥取県が取り組む流域治水事業では、ため池の洪水緩和機能の活用が期待されている。このとき、ため池の貯水可能容量の推定には、ため池内の水位と貯水量の関係を曲線で近似した水位一貯水量曲線が必要不可欠であり、ため池の断面形状に依存することから、ため池の高精度な測量データが必要である。 本研究では、UAVを用いたため池の測量手法の確立と、ため池の3次元モデルによる簡易な水位一貯水量曲線の作成を検討する。
15	地域参加型研究プロジェクト (長期型) R4～R6	地域学部	五島朋子	コミュニティシアター再生プロジェクト	本研究は、地域演劇(コミュニティシアター)に関する記録や情報を収集・蓄積、活用・発信することで、市民による創造活動の振興に資するアーカイブ形成を目的とする。様々な芸術分野の中でも演劇はライブ(時間芸術)という特性上、その記録・資料は非常に限定的で、また散逸も著しい。地方のアマチュアによる脚本はそもそも出版される機会も少なく、地域の芸術活動の営為は、演劇や文学の専門家からも、また地域住民からもその価値が顧みられる機会がない。そこで(1)戦後の演劇活動の蓄積に関し、脚本・上演資料・映像記録などを調査収集し(2)アクセス可能な資料としてアーカイブ化するとともに(3)調査研究の成果を展示・刊行することで県内外に発信する。以上の調査収集・アーカイブ化・発信の連環により、地域の文化活動の蓄積を顕在化させることで、地域への愛着と誇りの醸成に寄与し、文化豊かな地域づくりが期待できる。
16	地域参加型研究プロジェクト (長期型) R4～R6	地域学部	高橋健司	山陰に伝わる「一式飾り」の価値の探究と継承	山陰に伝わる「一式飾り」の歴史は古く、江戸時代に日本各地で流行した民俗芸能の流れを汲む。「一式飾り」は既に伝統が途絶えた地域が多い中で、山陰の八つの地域では今日まで続けられ、地域で長く親しまれてきた生活文化と言える。しかし近年は人口減少とコロナ禍により、各地で伝統の継承が危ぶまれていることから、本プロジェクトではフィールドワークを実施して「一式飾り」の価値を探究し、その知見を「一式飾り」の伝統継承に向け社会実装する。そこで鳥取県南部町と連携して「一式飾り」の伝統を継承する「人づくり」と、「一式飾り」の情報を地域内外に発信する「拠点づくり」に取り組み、「一式飾り」の伝統継承システムを構築する。そして世代間・地域間の交流を促進して「一式飾り」の価値を広く共有し、山陰の「一式飾り」の伝統の継承を目指す。

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
17	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4~R6	地域学部	筒井 一伸	まちなか過疎地・中山間地域における“空き家”の地域資源化スキームの開発	<p>本研究は、“空き家”などの地域資源化をめざしたスキーム開発を目的とする。</p> <p>空き家の主たる問題は二つあり、一つは不動産市場で取引されるまでの経済的価値を有しない問題、もう一つは「空いてない空き家」、すなわち所有者が空き家として認知しない問題である。これを踏まえて本研究では(1)空き家を取り巻く社会的ネットワークの抽出し、周囲も所有者も空き家と認知することで、(2)利活用のシナリオとして(2-1)不動産などの市場流通、(2-2)地域的文脈に基づきリノベーションを行うことで再価値化、(2-3)文化的価値に基づく再価値化を想定した、適切な対話の場のプロセスデザインを行う。具体的な利活用については地域コミュニティやNPO、地元金融機関といった実践主体との対話を介した連携を重視するため、その連携チャンネルを実施組織内に準備をする。</p>
18	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4~R6	地域学部	筒井 宏樹	芸術文化の拠点形成	<p>本プロジェクトは、地域の芸術的営為の情報を蓄積し、活用することで芸術文化の拠点を形成していくことを目的とする。</p> <p>その活動は、第一に地域の過去から現在に至る芸術的営為に着目し、それらをリサーチし、研究したうえで、その成果をアーカイブ化していくことである。第二に県外の芸術文化を県内に紹介することで多様な文化を育む土壌を醸成していく。第三に、本プロジェクトの成果を鳥取県内外に発信していく。</p> <p>これまで、鳥取文化をリサーチした成果を『芸術と文化 鳥取』などの出版物として発行してきた。また鳥取大学出身の美術家・徳持耕一郎展(附属図書館、CDL)などを開催してきた。こうした成果を踏まえ、今後も活動を継続するとともに、さらに具体的な今後の取り組み内容として、鳥取大学にある美術品の調査を進めていく。鳥取大学ゆかりの資料を調査し、身近な美術品の価値に注目することで、鳥取大学が文化豊かな大学となることが期待される。</p>
19	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4~R6	地域学部	村田 周祐	「転換力」を鍵とする森林資源を活かした持続可能な地域モデルの構築	<p>本研究は、智頭町らと連携し、森林資源を持続的な地域づくりに結びつけるモデル開発を目的とする。これまでの林業政策は、森林資源＝木材生産としてのみ捉えるため、森林環境譲与税の用途などが限定され、地域づくりに活かされていっていない。そこで本研究は、地域の自然資源を多様な財とする「転換力」に着目することで、森林資源を木材生産という産業の観点のみならず、人々が幸せに暮らす地域づくりの観点からも位置づけ直していく。本研究は3つのステップで構成される。①「転換力」の発揮条件についての調査研究。②「転換力」を地域に涵養するための「担い手」創出の仕組みについての理論的考察。③これらの成果を、大学・自治体・住民の協働から智頭町の第8次智頭町総合計画に社会実装する。智頭町をフィールドとしたこれらの作業を通じて、他地域への展開可能な、森林資源に依拠した持続可能な地域モデルを構築する。</p>

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
20	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4～R6	地域学部	竹内 潔	地域資源の文化的価値に着目した創造的地域づくりプロジェクト	<p>本プロジェクトは、令和3年度戦略3重点プロジェクト(取組1-1)テーマ⑤「芸術文化の拠点形成」活動①「クリエイティブ地域創生・人間形成のメカニズムの解明に向けた研究教育」で中心的に取り組んできた、「ホスピタイル・プロジェクト」等の実績を踏まえ、これを継続・発展させる。</p> <p>具体的には、毎月実施している「niwacoの庭づくり」や「すみおれ図書室」の活動を核とし、「鳥取夏至祭」(6月)において中心市街地を体感する機会を来街者に提供して、両活動への活動への参加者を募る。そのメンバーで、旧横田医院を含む近隣の建造物その他の地域資源の文化的価値と活用可能性について調査・研究を行う。そして、旧横田医院の国登録有形文化財への登録や近隣地域資源を活用したアート活動の可能性を探る。</p> <p>なお、2025(令和7)年春に鳥取県立美術館が県中部の倉吉に開館することに伴い、県東部の拠点の在り方が課題となっている。旧横田医院が東部のアートセンターとしての機能を持つことなど、様々な可能性を提言していくことも目指す。</p>
21	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4～R6	医学部	中村 裕子	災害時の避難と福祉避難所をみんなで考えよう ～医療的ケア児(者)が利用しやすい福祉避難所の創設を目指して～	<p>災害時に医療的ケア児(者)の避難先となる福祉避難所の受入れ体制や必要な備品等が整備されていない。そのため、医療的ケア児(者)の保護者及び支援者等の不安が大きい。</p> <p>現在、福祉避難所のマニュアルを市町村ごとに作成しているが、都市部での災害を想定した厚生労働省の示したマニュアルを基にしていることが多いこと、要配慮者が多岐に渡っていることも影響し、実状に即したマニュアルの作成に至っていないことが全国的な課題である。</p> <p>本プロジェクトは令和3(2021)年度の地域参加型研究プロジェクト(代表:前垣義弘)の継続である。令和3年度は日吉津村における机上の避難シミュレーションを実施し、今回(令和4(2022)年度)は、医療的ケア児モデルを用いた実地避難シミュレーション(福祉避難所の開設及び運営のシミュレーション)を行い、医療的ケア児の避難方法や福祉避難所を創設する。その結果を踏まえ、県内の市町村の医療的ケア児(者)の福祉避難所マニュアル作成に繋げる。</p>
22	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4～R5	工学部	桑野 将司	中小事業者にむけたデータに基づくマーケティング戦略の立案支援	<p>地方都市のスーパーマーケット、農産物直売所、飲食店、アンテナショップのさらなる事業展開や利益成長のためには、大手企業と同様に、在庫管理や広報、イベント開催などのマーケティング戦略が不可欠であるが、中小事業者においては必ずしもそのノウハウを有しているとはいえない。</p> <p>本プロジェクトは</p> <p>(1)複数の中小事業者が保有しているデータを用いて、「簡易」から「高度」まで複数の解析手法を適用し、解析レベルによる出力結果の違いを提示する。これにより、事業者の身の丈にあったデータの利活用方法を事業者自身で選択できる仕組みづくりを行う。</p> <p>(2)各事業者のニーズ、保有しているデータの質と量、実施可能な施策に応じたデータに基づいたマーケティング戦略検討に資する情報を事業者に提供するため、鳥取版「データに基づくマーケティング戦略」事例集を作成する。</p>

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
23	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4~R6	農学部	児玉 基一郎	未発掘地域資源であるローカル酵母・発酵微生物の活用による地域産業創造・地域活性化プロジェクト	<p>酵母や麹菌は広く発酵食品・飲料の製造に用いられ、最も身近な有用微生物である。これら発酵製品は、それぞれの地方・地域独自の文化・産業とも深く結びつき、私たちの食卓を豊かにしている。</p> <p>近年、一般的な市販酵母とは異なる、自然界から新たに分離されたいわゆる天然(野生)酵母を、製パンや酒類醸造に活用する例が増加している。これは、食品・飲料に関する自然志向、地域性の重視、さらに、製品の差別化・付加価値の付与に関連した流れである。</p> <p>本事業では、二十世紀梨など特徴的な地域資源からユニークな「ローカル酵母・発酵微生物」を発掘・開拓し、地元自治体、地域グループとの密な連携により、オンリーワンの新規商品開発・産業創造による新たな地域価値創造を目指す。</p>
24	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4~R6	農学部	田村 純一	養殖鮭頭部廃棄部に含まれる地域資源探索	<p>県内養殖される銀鮭の処理で多量に廃棄される頭部の有効利用は重要な課題である。魚類頭部には量の多寡はあるもののコンドロイチン硫酸(CS)が含まれる。CSは健康食品になるほか医薬品としての価値も高い。鮭の氷頭(鼻軟骨)にはCSの存在量が期待されるが、CSの分子組成や分子量は養殖環境で変化する可能性があり、関連する生理活性の検証が求められる。</p> <p>本プロジェクトでは鮭頭部からCSなどの有用糖鎖を単離し、種々の科学的な特性を明らかにする。</p> <p>魚類は古くから医薬品としても用いられた。山陰の民間伝承に関わる情報をもとに現代の科学的実証をリンクさせ、有用資源探索の糸口とする。廃棄物から有用物質が得られれば新事業展開や新産業の創成にもつながり、地域の雇用を生み出し定住促進につながる大きな流れとなることが期待される。</p>
25	地域参加型研究プロジェクト(長期型) R4~R5	農学部	木原 奈穂子	農村地域の地域活動および産業活動を活性化する協働コンソーシアムの構想	<p>地域を形成する自然や人工物、地域活動を主導する産業やそれらを維持保全する自治会、まちづくり協議会等の組織は社会的共通資本としてまとめられるが、農村地域では、そのような社会的共通資本の維持・保全が困難になっている。このような困難性の多くは、人材不足に帰結する。</p> <p>本研究プロジェクトでは、農村地域における社会的共通資本として産業や地域活動を取り上げ、それらにおける人材のマッチングのあり方を検討する。</p> <p>具体的には、人材不足の解消を図るために必要な活動を行政機関や地域内事業者、大学とが一同に協議し、人材の流動性を高めるとともに、地域の実情を学び合うことにより、連帯経済を実現する「協働コンソーシアム」の設立を構想する。</p> <p>このことにより、地域全体での地域・産業活動の活性化に資するとともに、本コンソーシアムを活用したEBPMをベースとする農村活性化政策の実現に寄与する。</p>